

2025年度あいち医療ツーリズム推進協議会議事録

○日時：2025年8月18日（月）午後1時から午後2時まで

○場所：愛知県庁本庁舎2階 講堂

○出席者：委員12名（代理出席2名）

（事務局）保健医療局長、保健医療局技監兼医務課長、健康医務部長、
医務課担当課長 他

○議事

（1）愛知の医療ツーリズム推進に係る取組状況について（資料1）

（2）中部国際空港の現状と今後の注力市場について（資料2）

1 開会

（愛知県保健医療局健康医務部医務課 丹羽担当課長）

お待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまから、「2025年度あいち医療ツーリズム推進協議会」を開催いたします。

本日の協議会は、すべて公開となっておりますので、よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、保健医療局長の長谷川から御挨拶申し上げます。

2 挨拶

（愛知県保健医療局 長谷川局長）

保健医療局長の長谷川でございます。

本日は、大変お忙しい中、また暑い中、こちらの会場まで御出席賜り、誠にありがとうございます。

委員の皆様方におかれましては、日ごろから、本県の保健医療行政の推進につきまして、格別の御理解、御支援を賜っておりますこと、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

さて、本県では、2016年11月に「あいち医療ツーリズム研究会」において取りまとめていただきました提言に基づき、2017年2月に本協議会を設置し、既存の医療の受入余力を活用し、地域医療に影響を及ぼさない範囲で、愛知県の優

れた医療技術を海外から訪れる外国人の方々に提供する取組を、官民一体とな
って進めているところでございます。

あいちの医療ツーリズムを取り巻く本県の現状について、本日御出席の皆様
と情報の共有を図り、その推進に向けて御協議いただきたいと考えております。

限られた時間ではございますが、皆様から忌憚のない御意見を賜りますよう
お願い申し上げまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事

(愛知県保健医療局健康医務部医務課 丹羽担当課長)

議事に入ります前に、資料の確認をお願いいたします。

本日の協議会の資料は、次第、委員名簿、配席図、資料1、資料1の枝番が1
ー1、1ー2、資料2、参考資料1、2となっております。不足等ございました
ら、お知らせください。

続きまして、出席者の御紹介でございます。本来であれば、お一人ずつ紹介さ
せていただくところですが、時間の都合もございますので、今年度委員の交代に
より御就任いただきました方を紹介させていただきます。

愛知医科大学病院 院長 天野 哲也委員でございます。

中部国際空港株式会社 代表取締役社長 籠橋 寛典委員でございます。

名古屋市立大学病院 院長 松川 則之委員でございます。

なお本日は、中部国際空港株式会社 代表取締役社長 籠橋 寛典委員に代わり
まして、同社 航空営業部 部長 金室 紀子様、名古屋市立大学病院 院長 松川
則之委員に代わりまして、同病院 副院長 瀬尾 由広様に代理出席いただいてお
ります。

また、天野委員、植村委員は、所用により御欠席との連絡をいただいております。

それでは、これから議事に入りたいと存じますが、以降の進行は、柵木会長に
お願いいたします。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

はい。本協議会の会長を務めております、愛知県医師会の柵木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

円滑な議事運営に御協力の程、重ねてお願いする次第でございます。

それでは早速議事に入りたいと思います。議題（１）「愛知の医療ツーリズム推進に係る取組状況について」、事務局から説明をお願いします。

（愛知県保健医療局健康医務部医務課 浅井課長補佐）

はい。議題（１）「愛知の医療ツーリズム推進に係る取組状況について」、事務局から御説明いたします。医務課医務グループの浅井です。着座にて失礼致します。

それでは資料１をご覧ください。資料左側「１ 事業概要」でございます。愛知の医療ツーリズム推進につきましては、既存の医療の受入余力を活用し、地域医療に影響を及ぼさない範囲において、本県の優れた医療技術の提供による医療の国際化の推進を図り、併せて訪日外国人の本県への誘客を促進する、ということを目指しております。

その下、「２ 施策の実施状況」としまして、各年度における取組内容を表にしております。2016年５月に設立した あいち医療ツーリズム研究会から御提言を頂き、2017年２月に本協議会を立ち上げ、各種取組を実施しております。2023年度には、海外向け多言語ポータルサイト愛知の医療ツーリズムナビを制作しており、2024年度と2025年度においては、その充実を図ってきております。

次に、資料右側をご覧ください。「３ 2025年度の取組内容」でございます。（１）から（４）まで、４つの取組を行っております。

「（１）あいち医療ツーリズム推進協議会の開催」でございます。本日のこの協議会になりますが、委員の皆様に御協力をいただきながら、医療ツーリズムの推進に向けた具体的な取組みについて、協議を行う場を継続的に設けているものでございます。

続きまして、「（２）海外PR事業」でございます。海外における愛知県の医療ツーリズムの認知度向上やイメージアップを図り、インバウンド需要を取り込んでいくため、多言語対応のポータルサイトを運用しております。ポータルサイトでは、海外の患者や国際医療コーディネーターの方々に閲覧してもらうため、

日本における医療ツーリズムに関する手続の情報を紹介するとともに、掲載協力を頂きました医療機関の取組事例や強みを掲載しております。

2025 年度の具体的な取組を点線の四角で囲って記載しておりますが、①対応言語の追加として、現在、日本語・英語・中国語・ベトナム語を対応言語としておりますところ、新たにインドネシア語を追加予定としております。

次に、②掲載医療機関の追加として、現在、7 医療機関を掲載しておりますところ、新たに偕行会リハビリテーション病院に御協力いただき、追加掲載していく予定としております。

③ポータルサイトの広告でございます。受入れ実績が多い中国・ベトナム・インドネシアに対してバナー広告を掲載予定としております。

次の頁をご覧ください。左側の参考 1、2024 年度ポータルサイト広告結果でございます。海外向けの広告としまして、中国向けのバナー広告は、7,320,594 回表示され、5,305 回クリックされております。

また、ベトナム向けのバナー広告は、533,218 回表示され、14,689 回クリックされております。

日本向けとしましては、在日外国人に向けて、海外に暮らす家族のために医療機関を探すケースを想定し、リスティング広告が 64,111 回表示され、1,456 回クリックされております。

参考 2、2024 年度ポータルサイト閲覧状況でございます。Google Analytics による分析では、Web ページ表示回数が 25,436 件、ユーザー数が 13,519 名となっており、主にバナー広告を表示したベトナムが 9,914 名と多くなっております。

また、中国では規制により、Google Analytics の使用が制限されているため、中国版分析サイト Matomo による分析を行ったところ、Web ページ表示回数が 4,707 件、ユーザー数が 3,575 名となっております。

参考 3、2025 年 4 月から 6 月のポータルサイト閲覧状況でございます。Google Analytics による分析では、Web ページ表示回数が 1,922 件、ユーザー数が 916 名となっております。中国版分析サイト Matomo による分析では、Web ページ表示回数が 157 件、ユーザー数が 66 名となっております。

今年度は、まだバナー広告の掲載を実施しておりませんので、今後、広告表示

によって閲覧回数の増加を図ってまいります。

資料右上「(3) 医療ツーリズム普及研修」でございます。医療ツーリズムへの参入を検討している医療機関の開設者等に対して、心理的な参入障壁を下げるため、一般社団法人中部メディカルトラベル協会に委託して、研修を実施する予定としております。開催時期は、2025 年 10 月頃の予定でございます。

「(4) 外国人患者の受入れ状況に関するアンケート」でございます。今年度の 5 月から 6 月にかけて、県内の 244 の医療機関を対象にアンケートを行いました。126 の医療機関から回答をいただき、回収率は 51.6%でした。

アンケート結果の詳細につきまして、資料 1－1 をご覧ください。「1 概要」ですが、医療ツーリズムを推進する上での現状と課題を明らかにすることを目的としまして、令和 6 年度を対象期間としたアンケートを実施しました。調査結果は次の 2 頁から 9 頁まで、5 枚にわたりますが添付しております。この結果のまとめとして、1 頁目の 1 番下の「6 まとめ」でございます。

1 つ目の○でございますが、昨年度は、県内 10 医療機関において外国人患者の受入れがありました。

2 つ目の○でございますが、令和 6 年度は、中国・ベトナム・インドネシア・アメリカ等から患者を受入れております。

3 つ目の○でございますが、県に実施してほしい施策として、「外国人患者受入れに積極的な医療機関について情報発信」、「現場職員を対象とした研修」という回答が多くなっています。

1 枚おめくりいただきまして、2 頁目の真ん中辺りの「(3) 外国人患者受入実績」をご覧ください。まず、健診・検診分野では、受入れ実績のあった医療機関の数は、5 となっております。下の表でございますが、居住国別受入れ人数では、1 番多いのが中国からで 57 名、次にベトナムからで 5 名となっております。

右側の 3 頁にいきまして、治療分野では、受入れ実績のあった医療機関の数は、8 となっております。その下の表でございますが、居住国別受入れ人数では、1 番多いのが中国からで 886 名、次にベトナムからで 52 名、インドネシアから 19 名となっております。健診・検診と治療を合わせますと、合計で 1,038 名の受入れを行ったことになります。

それでは、資料 1－2 をご覧ください。平成 29 年度から令和 6 年度までのア

ンケート調査結果の推移をまとめております。

1 頁の中段の表「受入れ医療機関数」をご覧ください。令和 5 年度中の受入れ患者数が健診・検診と治療を合わせて 416 名で、令和 6 年度は 1,038 名ですので、1 年間で 600 名以上の増となりました。新型コロナウイルス感染症の流行前の令和元年度が 1,099 名ですので、コロナ前の水準に戻ってきているものと思われま

す。その他の集計結果の内容につきましては、お時間の都合もございますので、説明は割愛させていただきます。

以上で、議題（１）「愛知の医療ツーリズム推進に係る取組状況について」の説明を終わります。よろしくお願いします。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

ただいま事務局から説明がありましたように、アンケートによると、コロナ前の水準に戻ってきたと。どんどんとまた数が増えてくるのかなという感じもありますけれども、ただいまの御説明に対して、御意見、御質問等いかがでしょうか。

星長先生どうですか。かなり戻ってきたような感じですか。

（学校法人藤田学園 理事長 星長清隆 委員）

アンケートにあるようにそこまで戻ってきたというような感じはあまりないですけどね。コロナの時よりはよろしいですが、事務から預かってきた資料によると、2024 年度は、外来患者数が 728 名、入院患者数が 33 名ですから、これは明らかに少ないと、私どもとしては少ないと思っております。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

どうもありがとうございました。川原先生いかがですか。

（偕行会グループ 会長 川原弘久 委員）

県は 10 年間取り組んでこられたと思いますが、その割にはこの数字は伸びきっていないなというのが正直な感じです。これは県の責任でも何でもない。

普通のインバウンドはこれだけ多いのに、どうしてメディカル関係のインバ

ウンドが少ないのかというのは、私は国の姿勢にあると思っています。

韓国は、国を挙げて取り組んでいます。経産省も口では言うけど、本当に予算つけて、きちんとやっているのかというと、国の取組は弱いです。

普通のインバウンドがこれだけ増えてきているのにも関わらず、しかも日本の医療は世界的にかなり評価されているにも関わらず、これだけの数字というのは、もう少し国が、インバウンドの中に医療というものを評価して、取り組んでもらわないといけないと思うので、県の方から国の方にも働きかけてもらいたいと思います。

私もいろいろな政治家と話しますが、ほとんど医療に関心がない。今、病院の医療が崩壊するということをメディアが言っているにも関わらず、そういう事実は知っていても、じゃあどうするかということについては、残念ながら返事がない。

だから国の推進の弱さが、この数字に反映されていると私は思っております。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

東京や大阪に行ってしまったって、名古屋にはなかなか来ないと。そういう傾向ではないですか。

（偕行会グループ 会長 川原弘久 委員）

少ないと思います。星長先生どうですか。

（学校法人藤田学園 理事長 星長清隆 委員）

羽田は、去年外来で900ちょっとですね。

（偕行会グループ 会長 川原弘久 委員）

韓国どころか、マレーシア、シンガポールさえも10万単位でいっていますから、話にならないです。でも日本は、外国人をそんなに受入れようとはしていないですよ。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

国策としてね。要するに、外資獲得策として、タイやシンガポール、韓国がそれに追随して、かなりしっかり国を挙げてやっているというのは事実でしょうね。

日本はそこまでは全然やっていないし、やる必要があるかどうか、川原先生もおっしゃるとおり、その辺はもう少し議論の余地はあるだろうと思いますね。

（偕行会グループ 会長 川原弘久 委員）

韓国は先行しているから、韓国への紹介が多いのではないかと思います。

実際、韓国はセブランスとかアサンとかサムスンとか大規模な病院、星長先生のところみたいな、あれぐらいの体制を組んでやっていますので、正直日本は勝てません。だから国が、インバウンドの中で医療をもっと強く位置付けないと出来ません。

後でまた話が出てくるとは思いますけど、セントレアも弱いんです。私どもインドネシアとは非常に深い関係にあるけど、インドネシアには飛行機が来ません。一回ガルーダ航空を引っ張ってきましたけど、1年で終わってしまいましたから。

だから、国にもう少しファンダメンタルなところを強化してもらわないと。個々の医療機関だけでは少し限界だと感じております。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

どうもありがとうございました。

それでは次の議題に移りたいと思います。議題の2番ですね。今、川原先生からお話が出ましたが、中部国際空港の就航状況について、中部国際空港株式会社 航空営業部 金室部長から説明をよろしくお願いします。

（中部国際空港株式会社 航空営業部 金室紀子部長）

はい。本日は、籠橋が欠席しておりますので、私が代理で説明をさせていただきます。

資料2に沿って御説明させていただきます。2頁目で、中部国際空港の現在の旅客数の推移と現状という形で御説明させていただきます。

赤色が国際線外国人の推移でございます。2019年度見ていただきますと、リ

一マンショック後、回復を遂げてインバウンドのブームということもございまして、年間 321 万人という形で推移しておりました。その後、国際線が 0 便となりまして、現在、回復途上にございます。昨年度、2024 年度に関しましては、年間 320 万人という形で、外国人の全体の数としては、回復をしているという状況でございます。

続きまして 3 頁目、旅客便の便数ベースで見たものとなります。2019 年度、週間で 486 便が、過去最高の便数でございました。そちらと比較しまして、2025 年 3 月末の夏ダイヤ期初が週 340 便ということで、約 7 割の回復という状況でございます。

ただ、この後 8 月 1 日時点の便数が、現在 322 便という形で落ち込んでおります。マイナス 18 便というのは、中国やタイといったところで、一度復活をしてきたんですけれども、なかなかお客様の流動が少ないということで、また運休に至るという形で、夏場は特に外国人の方の人数も減るものですから、一時的に少なくなっているという状況でございます。

4 頁目になりますが、こちらも先ほど御説明したスライドを、こういった時代背景があったかというのをまとめたものでございますが、国際線の旅客数としまして、昨年度は年間 491 万人という形で、こちらも約 8 割の戻りとなりました。

5 頁目が、空港の中で旅客数と、どの方面がどんな形で回復をしているかということを示したものでございます。左側、こちらが日本の主要空港である、羽田、福岡、那覇、関空、成田、新千歳、中部で比較しております。こちらに関しては、コロナ前の 2020 年 1 月に対して 7 月時点でどうか、というのを見ております。ご覧いただきますと、中部だけがかなり回復が遅れていて 67% という数字になっております。他空港につきましては、便数という目で見ますと、コロナ前以上の回復になっております。成田の 92% というのは、羽田空港の拡張によって、一部便が羽田につけかわっておりますので、首都圏という形で見ますと、回復をしているという状況でございます。

右側、こちらが中部国際空港の中で、国の便が回復しているかという状況になりますが、一番主力であった中国は週間 211 便運航しておりましたが、7 月時点で 99 便となっておりまして、8 月に関してはまたさらに減って 84 便という状況

になっております。こちらの回復率がまだ半分に満たないという状況で旅客数の遅れにも大きく繋がっております。

また一方で、韓国等は便数がコロナ前以上になっておりまして 131%、ベトナムに関しても、非常に伸びておりまして、164%という形で好調でございます。

一方で、タイ、ハワイ、グアムといったところは、まだまだ3割台の回復。こちらは、もともと日本人が海外に行く需要が主力であった路線ということで、日本人自体の回復が現在、日本全体でも7割に満たないぐらいの回復という中で、中部に関しても、まだまだ6割程度の戻りという状況でございます。

続きまして6ページになりますが、こちらは、国籍別で見たセントレアを使った外国人の内訳という形になります。2019年度のコロナ前と比べまして、2024年度は数字としましては、既に上回っておりまして、昨年の時点で外国人の数は過去最高の数字となっています。ただ、内訳が先ほど御説明したように、中国に関してはまだ半分、6割ぐらいですし、その減った分をそれぞれ、東南アジア、台湾、韓国といったところが伸びており、そこが数字をカバーしているという状況でございます。

東南アジアの中でも、ベトナム、シンガポールが堅調に伸びておりまして、タイに関しては非常に厳しい状況ということでございます。

また欧州の方も、53%になっておりますけれども、直近の4月5月に関しましては、フィンランドの直行便が戻ってきているということで、大体8割ぐらいにまで回復をしております。

7ページ目は国際線のネットワークとなります。中国に関しましては、もともと上海が非常に多かったが、やはり上海中心ということで、地方路線は非常に、少ない運航状況となっております。また、東南アジアの辺りに関しましても、ハノイ、ホーチミンといったベトナムが大きく伸ばしている一方で、まだバンコクは状況が非常に厳しいというところでございます。東アジアの方で見ますと、台北、高雄に加えて台中が新しく就航が実施されております。

また、直近の状況で言いますと、香港が7月5日の津波の風説の影響で、香港だけではなく、台湾や一部中国、それからベトナムといったところにもお客様の訪日控えというものがございまして、香港便の運休も決まり、非常に厳しい状況でございました。ただ直近の話で言いますと、そのあたりの風評というのは緩和

されていまして、今後秋に向けて増えてくる模様であると同っております。

最後に 8 頁目ですけれども、2025 年度、弊社の方で注力をしている市場でございます。こちら数字と優先順位の関連はございませんが 5 市場という形で、今現在まだ回復しきっていない欧州、タイ、中国と、非常に伸び率が高いベトナム、韓国を注力の 5 市場とさせていただいております。こちらに関しましては、中部国際空港というのはもともと、日本人のビジネス需要が非常に強くて、比較的日本人の利用を見込んで就航していた便が非常に多くございました。コロナは明けましたが、円安もあって日本人がなかなか海外に出ていかない中においては、インバウンドですね、訪日外国人に選ばれる地域の路線が先に回復をしているというのが現状になっておりまして、その意味ではやはり東京、大阪の一極集中ですとか、そういったところに押されてなかなか回復が鈍い状況という形で非常に苦しい状況でございます。

ただ一方で、今年 9 月に、Aichi Sky Expo で「VISIT JAPAN トラベル&MICE マーケット 2025」という、オールジャパンの日本全体の方が集まって、海外からも 200 ヶ国以上が来日する商談会が開かれますので、そういった機会においてこの地域の魅力をしっかりと発信をする、事業者同士の結びつきの中で商談をしっかりと行っていく、そういったことも考えております。

また来年、2026 年 9 月、10 月のアジア・アジアパラ競技大会で知名度を上げる絶好の機会とも捉えておりますので、そういった時期のアスリートの方の受入れ、それから応援の方々、ご家族の方々、少し長く滞在する方々が多くなると考えておりますので、そういった機会を捉えた訪日需要の促進というところの取組を行っていきたいと考えております。以上となります。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

はい。どうもありがとうございました。

これはやはり中国の経済が回復していないというところがあるんですかね、航空会社としてはどうですか。

（中部国際空港株式会社 航空営業部 金室紀子部長）

中国人の訪日数自体も、日本全体では回復しきっていないというところでは

が、経済状況もそうですが、どちらかという個人旅行化しているというのが大きな要素としてあると思っています。

過去は団体で訪れて、いろいろな地方に移動するというのが主流でしたが、コロナを挟んで、家族とか少人数単位で来日される方が多くなったことによって、今来ている方たちは、個人のビザを取得できる比較的富裕層な方になります。一方で富裕層なので、自分たちで旅行の行程を組んで行くことができる、そういった形の旅行に変化しているということと、個人旅行手配のインターフェースの整備が進んだことで、ネットでいろいろと予約されて、それに基づいて動くということで、ますます東京から大阪へのゴールデンルートに集中しているというデータがありますので、そういった点においては、まずは知名度を何とか上げる、選んでいただくためのテーブルに乗るということが非常に大事だと思っておりますので、SNS等を活用して、中部に滞在するとこんなに便利にいろいろなところに行けるとか、比較的宿泊費も高騰しておらず、長く滞在できるということをしっかり訴えていく必要があるのかなと考えております。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

はい。どうもありがとうございました。

ただいまの説明に対して、何かお聞きになりたいことはございますか。

中国から来ていた部分をベトナム等が代替しているというようなお話でしたけど。

はいどうぞ、佐藤委員。

(一般社団法人愛知県病院協会 会長 佐藤公治委員)

病院協会の佐藤です。

今、中国便の話がありましたが、私、以前から中国で手術したりなど、いろいろやっていたのですが、この間も行ってきました。やっと1月から12月までだけビザが自由に出るようになり、やはり国間の冷え切った外交が影響していて、他の先生に聞くと、日本に行きたいという患者はいるが、ビザが下りないと。中国で十分医療ができるではないかと。だから富裕層でも国が許可しない。

中国ドクターにもぜひ日本の学会に来てくれと頼んだが、年3回しか出られ

ないと。しかもパスポートは全部病院が握っているので、ビザどころか海外の出張もままならないのだと。

そんな国政の状況もあるので、中国便がそう簡単には回復しないのではないかと思います。富裕層だからビザ取りやすいというわけではなくて、そういう問題もあるのかと思います。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

国交が冷えておると。確かに知名度不足だと、愛知県のどこへ行って観光するかということになると、なかなか選んでもらえないということがあるかもしれないですね。

星長委員、何かコメントございますか。

(学校法人藤田学園 理事長 星長清隆 委員)

これ見て少しびっくりしたんですが、コロナ前はよく中国へ行っていたんですが、便数は明らかに増えていますよ。今まで飛んでいなかった、福州、広州、深圳、煙台、南京、西安。過去はなかったですよ。福州には上海かどこかで乗り換えないといけなかったんですが、直行便が増えているので。飛行機の便利さは良くなっています。だけど、人が来てないというのはやはり他の要素があるんですよね。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

インバウンドとして、選んでもらえてないところなのかもしれないですね。受ける側の整備もまだ、先生のところみたいに通訳を用意したり、そういうようなことがやはりしっかりやれていないと、なかなかインバウンドとしての医療需要はないのかもしれないですね。

何か他にコメントありますか、星長委員。

(学校法人藤田学園 理事長 星長清隆 委員)

県は一生懸命やっておられるんでしょうけど、なかなかこれは大変だと思います。もし各病院から、やりたいんだけどどうすればいいかと聞かれたら、私は

やめときなさいと言いますからね。だって、これだけやっても、私のところ黒字になってないですよ。出資の方が多いですよ。

設備も人も増やさないといけないし、職員が大変な思いをするんですよね。特に中国の富裕層は若者ですから、ドタキャンも普通ですし、それを容認しながらやっていくというのは、職員に余程忍耐力がないとできないと思います。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

そうすると、例えばタイのように、インバウンド需要をむしろ外貨獲得の手段にするという…

（学校法人藤田学園 理事長 星長清隆 委員）

それは、別に中国に限らずどこでもそうだと思うんです。

日本の医療というのは、ヨーロッパやアメリカに比べて安いんですよね。しかも質はいいんですよね。

だから我々は中国だけではなくて、そういうところにも注力しないとイケないのではないかと最近思い始めています。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

実際この協議会が発足して10年経っても、なかなか手が挙がってこないですよ。やはりそれだけハードルが高いのかもしれませんがね。

木村委員、ツーリズム普及研修について何か発言があるということで。

（一般社団法人中部メディカルトラベル協会 理事 木村慎吾 委員）

はい。県の方から委託を受けまして、今年の10月に医療機関向けの研修会を予定しております。

目的としては、今議論にもなっていましたが、10年間、医療ツーリズムを推進してきましたが、なかなか参加される医療機関が少ないということで、これから医療ツーリズムを日本に呼び込んでくる中で、県が官民一体としてやっていくというのは、一つ意味があって、海外から見たときに、愛知県は医療ツーリズムに力を入れて官民一体としてやっているの、愛知県に行こうかという流れ

を作りたいと思っています。

ただ、それには参加している医療機関の数がまだまだ少なすぎるというところです。2 年程前にポータルサイトを作っていただいて運用しているんですが、今 7 施設しか掲載されておられません。この 7 施設の内、4 施設は偕行会さんということで、少ないと。これでは見栄え的にも、愛知県が一枚岩でやっているとは見えないので、ポータルサイトに掲載して、医療ツーリズムやるという医療機関を増やすための研修会になります。

なので、ぜひ委員の皆さんの医療機関が参加していただけることを願っております。

とにかくポータルサイトにたくさん医療機関を載せて、愛知県は官民一体でやっていますと。だから日本に医療渡航する場合、まずは愛知県という流れにしたいと思っております。

あと、県からも要請してもらいたいのですが、ビザの問題が非常に大きい問題になっていまして、例えば、健(検)診とかで、日本に来て、そこでパニックデータが見つかってそのまま治療したほうがいいという場合に、滞在しながら医療ビザに切り替えられないんです。そうすると、一旦国に帰って医療ビザをもう一回取り直さなければならない。治療が長期に渡る場合が多いですから、半年滞在とか 1 年滞在になった時に、健(検)診で来たビザではもう期限が切れて、オーバーステイになってしまうと。一旦国に帰ってまた来るというのは少し現実的ではないので、そういうところで、患者を取りこぼしているということもありますので、この辺は県の方から国の方に要請をお願いしたいと思っております。

とにかくたくさんの医療機関がポータルサイトに掲載して、運用していくことを目指しておりますので、よろしくお願いいたします。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

歯科は割と医療ツーリズムに馴染みがあるのではないかとということで、歯科の先生にも入ってもらったんですけど、東京とか大阪の現状というのをもし御存知でしたら。歯科は結構受けているのか、まだそこまで乗り出していないのか、どうでしょうか。

（一般社団法人愛知県歯科医師会 会長 池山正仁 委員）

全般的にあまり進んでない気がしております。基本的には、検診だけで終わっているような状況が続いているかと。

過日、先生ともお話して CAD/CAM とか、そういったものをやったらどうだと言われましたけど、本当は愛知学院が積極的にやってくれるといいのですが、愛知学院も現在体制が整ってないということなので、歯科の方もなかなか進んでないという状況だと思います。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

現在、物価高騰、賃上げということで、収入拡大よりも、もうどうしたらいいかわからないというのが現状でしょうね。インバウンドに目をつけて、もっと収入を増やしていこうというのは、現在の感じからすると変わっているという感じですね。余力があるからもっとインバウンドを取っていこうというマインドにはなっていないのだなど。特にインフレになってから、目の前の景気をどうすとか。人手不足というのも結構あるのかもしれないですね。

川原委員お願いします。

（偕行会グループ 会長 川原弘久 委員）

アメリカから来るということはありませんか。昔、デルタ航空が出していましたが？

（中部国際空港株式会社 航空営業部 金室紀子部長）

今、北米線は空白路線となっております。一度コロナ後に、デルタ航空が復便したんですけれども、なかなか旅客が乗っていただけないと、今となっては少し早く復便をしてしまったような状況になっておりまして、運休になりました。それ以降、北米線に関しては、本当に何度も愛知県知事にも御協力いただきながら、復便を働きかけておりますけれど、今のところ目処が立っていない状況でございます。

アメリカ渡航需要が回復してきたタイミングを見て、復便を検討すると言われておりまして、今現在、北米へのビジネス需要が 8 割ぐらいの回復になって

おります。ここをしっかりと、コロナ前と同水準くらいに戻した上で、さらにアメリカからのインバウンドを取り込むというのがないとなかなか戻せないと実感しております。

（偕行会グループ 会長 川原弘久 委員）

なぜそんな質問したかといいますと、我々、中国とか東南アジアばかりに目を向けていましたが、アメリカの医療なんて実際とても高いですね。

今、アメリカでは貧困層が 3000 万円以下だと言われていますが、日本でいえば貧困層ではないわけです。でもこういった人たちがアメリカで医療を受けるのは並大抵ではなく、やり方によっては、アメリカは大きなマーケットになる可能性がある。アメリカの富裕層じゃない人は、実際インドに行っています。

中国、タイ、ベトナム等はまだ富裕層が少なく、そこから抽出するより、アメリカの貧困層から中間層を狙うというのも、一つの方策ではないかと思って検討し始めていますが、一筋縄ではいかないと思います。

医療保険を使おうとすると、民間医療保険だから J C I を取得しているかどうかを言うでしょう。星長先生のところは良いですが、私のところは難しいので健診を中心にしようか検討しています。

これからアメリカはターゲットにしないといけなと考えておりますので、できるだけ早く、ロサンゼルスぐらいから名古屋に飛んできてもらえるとありがたいなと思っております。

今のところ、ハワイぐらいをターゲットにと思っているところですが、ぜひお願いしたい。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

さすが川原先生。確かに医療費の値段が高いアメリカで手術を受けるよりも、日本が保険点数でやるのかどうか知らないけど、もし仮に保険点数でやれば、日本で受けても、航空運賃とかその他経費を賄えますね、きっと。それはなかなか目のつけどころが鋭いなと思います。

アメリカの医療費が日本の 5 倍であれば、もし日本で保険点数かその 1.5 倍ぐらいでやるとしたら、日本に来る価値は十分あるのかもしれないですね。

(偕行会グループ 会長 川原弘久 委員)

アメリカをターゲットにするような方策が見つかれば、例えば、佐藤先生とかいろいろな病院が参加してくる可能性がありますよね。

木村委員が言いましたとおり、なかなか参加する医療機関が少ないですけど、医療機関を広げようと思ったら、マーケットも広げないといけないかなと思っています。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

今の御意見をお聞きになって何かコメント等ありますか。丸山委員どうですか。

(名古屋大学医学部附属病院 院長 丸山彰一 委員)

積極的にはやってはいませんが、名大病院の場合は、名大病院でしかやれない治療もございますので、そういうのは比較的積極的に受けている。ただ、儲けよというわけではなく、受動的にやっているというのが現状です。

(公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長)

名市大はいかがですか。

(名古屋市立大学病院 瀬尾由広 副院長)

積極的にはやっていませんが、今救急災害棟を作っていて、来年オープンするんですけど、医療ツーリズムは、旅行中に末期癌等が発見されたり、心血管疾患で倒れたりする場合があって、うちがそういうのを引き受けたりしているのですが、愛知県で病気になっても安心だという提言をぜひしてもらいたいです。

重症な患者が救急で来ても、外務省に電話したらどこも取り合ってもらえない。ですから、愛知県だと県庁かどこかに一本化してもらって、そういうものをいろいろ対応してくれるような部局を作っていただけると、愛知県にたくさんインバウンド来ても、旅行中に問題になってもOKですよ。救急医療はします

が、その先どう帰すのか、そういった整備が日本全体、全然できていないのではないかと感じております。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

インバウンド対応としての外国人医療という側面ですよね。確かに、今でもすごく増えてきて、もう過去最高になりつつあるということで、インバウンドを呼び込むときに、病気になってもしっかりと対応できますと、愛知県では県を挙げてそういうものをやっていますよということになれば、それは観光客の誘致としては非常に良い手段かもしれませんね。

他に何か御意見ございますか。

（偕行会グループ 会長 川原弘久 委員）

来年、アジア大会があります。おそらく観客が多く来るとと思いますが、アジア大会の医療体制はどのようになっていますか。場合によってはインバウンドのチャンスになるかなと思っておりますが。

（愛知県保健医療局 長谷川局長）

御質問ありがとうございます。

アジア大会においては、別で組織がありまして、基本的には、そちらの方で医療体制等の検討が進められていると聞いておりますので、当局では直接行っていない状況です。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

アジア大会は組織があって、保健医療局は直接タッチしていないということです。だけど、確かにそれはある種の起爆剤になるかもしれないですけど、まだ全然盛り上がってないですね。

（一般社団法人愛知県病院協会 会長 佐藤公治委員）

病院協会の佐藤です。川原先生の質問を私もしようと思っていて、やはりこの協議会は医療のために来るツーリズムですが、今の多様性の時代に合わせた議

論がしたい。八事の近くは本当に留学生が多いですし、多言語で診療に関わる人もたくさんいるわけで、今後日本人が減って外国人が増えて日本の人口が維持されるかもしれないというデータがある中で、観光とか、健康志向を目的にインバウンドで来るだけじゃなくて、日本にいる外国人にどう対応していくかというのは、すごく大事だと思っています。

以前は、星長先生のところを真似して健(検)診をしたり、川原先生のところみたいに行こうかと思っていたのですが、むしろその辺のコンビニで働いている外国人たちに、保険があればという前提条件はありますが、きちんとした医療を提供すれば、いずれその噂が本国に通じて、家族を連れてくるとか、いろいろなことにつながるとしています。まずは日本人と同じ医療ができるような対応をしようと思っています。

この間も国の方で問題になっていて、外国人がほとんど保険料や厚生年金を払っていないくて、当院でも結構取りはぐれて、救急でも非常に問題になっていることは百も承知です。

多様性の時代で、医療に来てもらう前にまず、先ほどおっしゃっていたような、名古屋に来ると安心して医療を受けられるよと、それも高度な医療をきちんと受けられるという評判が立つと、ひいてはインバウンドにつながるかなと、医療のために行こうかなという人が増えるのではないかと思います。

当院としては、ツーリズムに乗るというよりは、外国人にも人道的に医療をやっていこうと思います。

その中で、先ほど川原先生がおっしゃったアジア大会は、一つの良い契機だと思います。この協議会と全く関係ないと言われてしまうと少しどうかなという気はしまして、実は病院協会は少し四苦八苦しています。アジア大会の組織委員会が、各フィールドの近くの病院を大会指定病院と名付けて、そことの関係を組織委員会が調整しています。組織委員会がやっているのは医療だけでなく、競技すべてのお世話をしているので、ドクターも組織委員会に入ってみえるんですが、結構大会指定病院頼みというところがあって、今すごくリクエストが増えてきています。それこそ、通訳はどうするのか、1点いくらでやるかそれは各病院で決めてくれとかですね。この辺りは少しこの協議会が、ツーリズムとは少し外れるかもしれませんが、外国人向けの医療を考える会でもあるような気もする

ので、少しアドバイスなり、主導していただけると病院協会も助かるかなと思います。少しいろいろな話題が入ったかもしれません。

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

はい。どうもありがとうございました。

このアジア大会も開催の基礎の部分では着実に進んでいるのでしょけれども、一般の県民にはなかなか、来年の 9 月にもうアジア大会が行われるという意識すらないのが現状ですので、まずは盛り上げていく必要はあるのだらうと思います。

それと、このツーリズムなりインバウンドなりをどのように結びつけるのかというのはやはり考えていく必要が当然あるのだらうと思います。

これだけ多くの外国人選手、周りの人も含めてすごい方々がこの愛知県・名古屋の周辺、場合によっては東京でも行われるという話で、長く滞在されますので、これを機会に、インバウンドを含めて外国人を見ていくという、そういうシステムを作る契機にはしていかないといけないという感じはします。

だから実行委員会ともう少し連携を密にして、医療を提供するという視点からも今後、何かいいアイデアがあれば、事務局として提案してほしいなと思います。

他には何かございますか。

それでは最後に事務局から何かございましたらお願いします。

4 事務連絡

（愛知県保健医療局健康医務部医務課 丹羽担当課長）

事務連絡でございますが、本日の協議内容につきましては、事務局で議事概要案を作成し、発言された方に内容を確認の上、公表させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

5 閉会

（公益社団法人愛知県医師会 会長 柵木充明 協議会会長）

委員の皆様におかれましては、議事の進行に御協力いただき、誠にありがとう

ございました。

それでは本日の協議会はこれにて閉会としたいと思います。どうも御協力ありがとうございました。